

11月の掲示板より

「紅葉 — ころよう？もみじ？なぜ赤や黄色になるの？ —」

紅葉（ころよう・もみじ）とは、一般的に、落葉する広葉樹が、落葉する前に葉の色を赤や黄色に変える自然現象のことを言います。黄色の場合は黄葉とも言います。「もみじ」は、紅葉する、黄葉する意味の古い言葉からきていますが、カエデ科のものを指すことが多いようです。

落葉樹は、太陽の光がたっぷりある夏には、緑色のクロロフィルが光を吸収して活発に光合成を行って栄養をつくり出しますが、秋も深まって日照時間も量も少なくなると光合成が効率よく行われなため、無駄なエネルギーを使わないよう、植物自身がいらなくなった葉っぱを落としていきます。その過程で、緑色のクロロフィルが分解されると、元々あった黄色のカロチノイドが目立ってきて黄葉するそうです。そして、クロロフィルもカロチノイドも分解されていく中で、赤色のもとになるアントシアンが光の害から植物の体を守るために後からつくられて、葉が赤くなるそうです。葉っぱの老化現象とも、植物による生存戦略とも言えそうな紅葉を、人は美しいと感じることが、とても不思議なことに思えました。

柏木小学校の校庭や神田川の遊歩道、新宿御苑など、身近な紅葉を発見して、美しい秋を楽しみましょう。



もみじ



山茶花



柚子



※和菓子は、季節を取り入れたものが多いです。左のもみじの和菓子は、色が緑、黄、赤と変化していく様子も表しています。山茶花も見頃です。また、柚子も今が収穫時期です。他にはどんな和菓子があるか、見つけてみましょう。



11月の掲示板装飾「色づく森の入り口で」

図工室から見える柿の木。一枚の葉に、数限りない色があります。



新宿御苑の紅葉したもみじ

【意味】
奈良の三室山の紅葉が嵐によって吹き散らされ、竜田川に落ちて川を錦の織物のように美しく染めている。
錦とは、種々の色糸で地色と文様を織り出した織物のことで、美しく立派なものをつたえるときにも使います。
百人一首には、他にも紅葉を詠ったものがあります。高学年のみなさんは、他の和歌も調べてみましょう。

【紅葉を詠んだ和歌】
嵐ふく三室の山のもみぢ葉は
竜田の川の錦なりけり
能因法師（百人一首六十九番）

↓ 掲示板のところにある
ハナミズキも紅葉しています。



新宿門横の掲示板にあります。
令和2年11月 図画工作科 竹内とも子